



## 標高4,000mのドライブ

公益財団法人 資本市場研究会  
理事

日出島恒夫

3年間住んでいたアメリカでの思い出の一つに、ロッキー山脈の旅行がある。

コロラド・スプリングに泊まって、翌日、仰ぎ見るロッキーの山並みに向けて車を走らせていると、「Pikes Peak →」という看板があった。なにかの名所があるのだろうと進んで行ったが、未舗装でガードレールもないつづら折の坂道があった。

坂道を走っていると徐々に車のパワーが弱くなり、アクセルを踏み込んでもスピードが出なくなった。中古の大型普通乗用車だったので、エンジン性能が悪いのかなと思いつつノロノロ運転で走った。

途中で引き返すには脇道も無く、Uターンする十分なスペースもなかった。また、当時は免許、運転歴1年でもあり山道の途中でUターンしない方がいいだろうとそのまま走り続けた。

結局、終点は山の頂上であり、ロッキーの山々を見下ろす素晴らしい眺望の広場があった。

景色を眺めていると、8月の真夏だというのに身体が震えるほど冷えてきた。寒いのもう麓へ降りようと思っていたところ、赤い気動車と客車がゴトゴト音をたてて登ってきた。線路沿いに駅舎はもちろんプラットホームもない所に乗客が降りてきたが、多くは防寒服を着ていた。

下りはエンジンブレーキで慎重にゆるゆると運転して降りた。麓の付近まで降りて来るとエンジンの調子は少しずつ元に戻った。

後で分かったことがいくつかあった。

- ①その頂上は標高14,115フィート（4,302メートル）、富士山頂上より高い所であった。
- ②登ってきた赤いディーゼル列車は、パイクスピーク・コグ（歯車）登山鉄道であった。
- ③道路は全米でも著名なカーレース、オートバイレースの「パイクスピーク・インターナショナル・ヒルクライム」別名“Race to the Clouds（雲を目指すレース）”として世界中から多くのチャレンジャーを魅了しているレースコースだった。

今回調べたところ、麓の鉄道駅の写真があり、その掲示板に「暖かい服、酸素を持参ください」とあった。無事に下山できたことに改めて安堵した次第である。

なお、ずっと無事故無違反で過ごせたが、昨年その運転歴を免許証自主返納で手仕舞った。

